単 元 名	鉄棒運動	配当時間	6時間
単元の目標	(1) 互いに協力して鉄棒運動をしたり，器械・器具の使用の仕方を工夫して安全に運動をしたりしようとする。 (2) 自己の能力に適した技に取り組み，その技ができるようにするための課題の解決の仕方を工夫することができる。 (3) 上がり技，支持回転技，下り技の中から，自己の能力に適した技に易しい条件の下で取り組んだり、それらの技がある程度正確にできるようにしたりするとともに，上がり技，支持回転技，下り技を組み合わせることができる。		
単元を構想する上での留意点	鉄棒運動は，遊びの中での腕支持や逆さ感覚づくりが大切である。体ほぐしの運動で易しい遊びやゲームを行い，楽しく腕支持感覚や逆さ感覚づくりを行う。また，児童が意欲をもって取り組めるように，それぞれの技のステップに応じた場を設置し，易しい場でできたことを認め，新たな挑戦課題へと取り組ませていくことが大切である。 展開例１は基本的な学習活動の例である。学習の仕方が十分慣れていない段階で，もち技も少ない場合は，めあて１にじっくり時間をかけるなど弾力的に学習を進める。展開例２は，集団鉄棒運動の例である。集団で練習する中で運動のリズムや美しさを習得させる。今ある力を大切にして運動の習熟を図るとともに，一人では味わうことができない集団的達成の喜びを与えることをねらう。		

単元展開例１ … 基本的な学習活動の例

準　　備	鉄棒，ビデオ，補助具，技の連続図，学習カード　など

学　　習　　活　　動	留　意　事　項　な　ど
1 鉄棒運動の学習のねらいと内容を理解し，学習の進め方について見通しをもつ。	
o学習のねらいや進め方を知る。 〔鉄棒の新しい技を身につけ，技を組み合わせて回ろう〕	・ビデオや資料などを利用し，技の種類や組み合わせ方を知らせ，学習意欲を高める。
o学習カードや資料の使い方を知る。 oマナーや安全な運動の仕方について知る。	
oグループを編成する。	・２人１組で１グループを作る。
o鉄棒運動に関連した体ほぐしの運動をする。	・易しい遊びやゲーム等を取り入れ，腕支持感覚や逆さ感覚を経験させる。
o試しの運動をし，めあてをつかむ。 ・膝かけ上がり　・逆上がり ・前方（後方）支持回転 ・前方（後方）片膝かけ回転 ・転向前下り　・踏み越し下り ・こうもり振り下り　など	・学習カードにできる技をチェックさせ，次時のめあてをつかませる。 ・学習カードには技の組み合わせ方も例示しておく。
2〜5 鉄棒運動をする。 o体ほぐしの運動をする。 o本時のめあてや練習方法を確認する。 o今できる技を繰り返したり，組み合わせたりして楽しむ。（めあて１）	・自分から進んで取り組めるように，学習カード，ビデオ，連続図などを用意し，学習環境を整える。 ・無理なめあてに取り組んでいないか，安全に気を付けて練習しているかなどを観察し，必要に応じて助言する。
o技のステップに応じた練習の場で，できそうな新しい技に挑戦する。（めあて２） ・補助者を付けて ・補助具を付けて	・２人１組で互いのめあてに合った練習の場で協力し合って練習させる。 〔評〕２人で協力し合って練習する活動を通して，「関心・意欲・態度」を評価する。
o反省し，まとめをする。 ・できばえ　・態度　・次時のめあての把握　など	〔評〕自分に合っためあてをもって練習する活動を通して，「思考・判断」を評価する。
6 発表会をする。	・単元のまとめとして発表させる。

o体ほぐしの運動をする。 o演技種目の練習をする。 o発表会をする。	・発表する鉄棒に補助具を置いた易しい場を用意し，完全なできばえでなくてもできたことを認め，発表させる。 評発表会を通して，「技能」を評価する。
o単元のまとめをする。	・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

単元展開例２ … 集団鉄棒運動を取り入れた学習活動の例	
準　備	鉄棒，ビデオ，補助具，技の連続図，集団鉄棒を行うときにBGMとして使う曲，カセットＣＤプレーヤー，学習カード　など

学　習　活　動	留　意　事　項　な　ど
1　集団鉄棒運動の学習のねらいと内容を理解し，学習の進め方について見通しをもつ。	
o学習のねらいや進め方を知る。 ［友だちと調子を合わせて，集団鉄棒運動で演技しよう］	・ビデオや資料などを利用し，技の組み合わせ方の例などを知らせ，学習意欲を高める。
o学習カードや資料の使い方を知る。 oマナーや安全な運動の仕方について知る。	
oグループを編成する。	・１グループ６～８人程度で編成する。グループの演技を見せ合い，アドバイスし合うペアグループを決めておく。 ・１グループで鉄棒を２～３欄使用させる。
o鉄棒運動に関連した体ほぐしの運動をする。	・易しい遊びやゲームなどを取り入れ腕支持感覚や逆さ感覚を経験させる。
o試しの運動をし，集団鉄棒運動の構成を考える。 ・膝かけ上がり　・ももかけ上がり ・前方（後方）支持回転　・逆上がり ・前方（後方）片膝かけ回転 ・転向前下り　・踏み越し下り ・こうもり振り下り　など	・できる技を確認させ，演技構成例を基にグループで話し合わせる。
2~6 鉄棒運動をする。 o体ほぐしの運動をする。	
o本時のめあてや練習方法を確認する。	・集団鉄棒運動の演技に合わせた個人のめあてとグループのめあてを立てさせる。
o集団鉄棒運動のための個人練習をする。 （めあて１）	・個人練習であっても教え合ったり，励まし合っているグループを紹介する。
o集団鉄棒運動のためのグループ練習をする。 （めあて２） ・場面ごとの部分練習をする。 ・通し練習をする。 ・ペアグループでアドバイスし合う。	・リズムやタイミングをとるために声を出したり，音楽を生かしたりするよう助言する。 ・前回から伸びた点を賞賛し合うようにさせる。 評集団鉄棒運動の合わせ方を工夫して練習する活動を通して，「関心・意欲・態度」「思考・判断」を評価する。
o反省し，まとめをする。 ・技の種類　・タイミングの合わせ方　など	・単元のまとめとして，学習の成果を発表させる。
7　発表会をする。 o体ほぐしの運動をする。 o集団鉄棒運動の練習をする。	・よかった点を見つけ合うようにさせる。
o発表会をする。	評発表会を通して，「技能」を評価する。
o単元のまとめをする。	・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。